

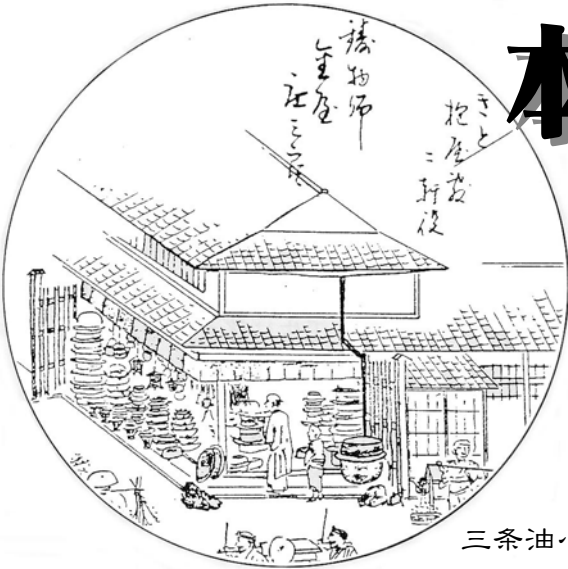
# 本能まちづくりニュース

第34号 平成18年9月20日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net  
URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページをご覧ください。



三条油小路町絵図より 鋳物師釜屋庄三郎方

## 都市再生モデル調査実施決定

本年4月3日、内閣官房都市再生本部が募集した「平成18年度内に展開される先導的な都市再生活動」に本能まちづくり委員会のまちづくり活動提案を、(財)京都景観まちづくりセンターの推薦で応募しましたところ、6月27日「全国都市再生モデル調査」として国費支援を受けることに決定しました。稚内から石垣まで全国541件の応募で、選定された159件のうちの一つです。

選定にあたっては、○地域が「自ら考え自ら行動する」自由な発想と創意工夫に基づく先導的な都市再生活動で、一過性でなく調査をきっかけに更なる広がり期待させるもの。○国費による調査対象となる取り組みが、平成18年度中に実施可能であること。○テーマに具体性・確実性があり、住民代表・地元企業の参加や、まちづくりの専門家等との積極的連携があること。等が考慮されました。

本能まちづくり委員会の提案は「交流から生まれる地域の新たな担い手の形成、及びストックを活かした産業基盤の形成調査」です。この取り組みは、「住みよいまち・育てたいまち・働きたいまち本能」をめざす当委員会の今までの活動を、国の経済的支援を受けて、さらに充実させ、将来につなげていこうとするものであり、従来の活動方針と異なるものではありません。具体的には、マンションにお住まいの人々や若者の地域参加を促す交流事業(例えば、区民運動会・本能もの

しり講座等)の充実。地域をひとつの工房と見立てて地元産業を生かした事業「おいでやす染のまち本能」の雰囲気づくりやプログラム化。「マイキモノプロデュース」の商業ベース化を目指してのサポーター養成・商品開発・システム整備等です。

本能まちづくり委員会では、住民の皆さんのご意見をいろいろな場面で汲み上げる機会をつくり、京都府立大学宗田研究室・立命館大学乾研究室・三菱UFJリサーチ&コンサルティング・中京区役所・(財)京都市景観・まちづくりセンターのご協力を得て、本年9月から来年2月までの、「都市再生モデル調査」対象となる活動を行います。そして、住民一人一人が、愛着と誇りをもって、安心して住み続けたいと思うようなまち・本能をつくって行きたいと思っております。



本もの推進会議、まちづくり委員会の合同会議(写真左)  
8月20日

立命館大学乾ゼミの学生も加わったの会議(写真右) 9月1日



## 賑わう本能の夏



本能自治連合会主催「本能夏まつり」が8月19日夕方、本能グラウンドで開かれました。



老若男女が集う



朝から会場設営

☆恒例のゲームコーナー6種、飲食コーナー10種、学区のお店の出店4軒は長蛇の列。

### ◆◆ゲームコーナー◆◆



### ◆◆飲食コーナー◆◆ (裏方さん大忙し)



### ◆◆出店コーナー◆◆



今回、大学のゼミ活動により本能夏祭りを手伝うことになりました。本能の夏祭りを体験するのは初めてだったので、期待しつつも自分は役に立つのだろうかという不安な気持ちでいっぱいでした。私は屋台を手伝うことになったのですが、まちの人たちがみんな本当に気さくで、快く私たちを受け入れて下さいました。それで私たち学生も、いろいろな話をしながら楽しく手伝うことができ、さらには、まちの人とも「どうぞ」「ありがとう」という会話や、「今揚げてるんで、もう少し待ってくださいねえ」「大丈夫です、待ちますよ」という会話を通してコミュニケーションをとれた気がしてすごく嬉しかったです。その中で、祭りに来ている一人一人が楽しんでいるんだなと感じました。まちの人から「一人で黙々とこなしていきただけやったらそれはただの“仕事”や。一緒に楽しむから“参加”になるんや」と言う言葉を頂きました。一緒に話して一緒に笑うからこそ絆が深まるのだと身をもって体験して気付きました。本能夏祭りは今の私にとって、収穫の多い一日でした。

立命館大学産業社会学部 2回生 長江聡美

☆ステージは、開智子ども太鼓・堀川高校軽音楽部・カラオケ・よさこいソーラン等で盛り上がりました



☆夕闇迫り、炭鉾節と江州音頭が流れ出すと、大人も子どもも浴衣姿が増えました。松平健張りキンキラキンのおじさんが登場。盆踊りが佳境に入ると、本能の夏はヒートアップ！そのせいでしょうか、途中ブレーカーが落ち（！？）照明と音声途切れるハプニングがありました。



☆今年は環境問題を意識した「ごみリサイクルコーナー」が登場、中学生・大学生のボランティアが分別収集に汗を流していました。



☆特別養護老人ホームに入所されている方や職員のみなさんも多数お見えでした。

☆抽選会場にお越しいただいた方（356名）の居住形態の内訳は、マンションにお住まいの方48.4%、一戸建てにお住まいの方51.6%と、ほぼ半数ずつでした。人々をまつりへと向かわせるその魅力を改めて感じるとともに、夏まつりが地域住民の交流の場として定着していることを実感しました。（ゆ）

## 楽し懐かし本能夏祭り

乾ゼミ生として、本能夏祭りにももちろんお手伝いに行ったのですが、なんだかこちらのほうが久しぶりの夏祭りを楽しんでしまいました。たくさんの子供たちがはしゃいでいる姿、準備や打ち上げで地域の人が声を掛け合い、テキパキと仕事が進んで行く姿や冗談を言い合う姿が、私が通っている出町という地域でのお祭りとなっていて、こういう雰囲気はどこでも一緒なんかなあと懐かしくなりました。「おれら小学校の同級生で、ずっといっしょにやってんねんで」と言う話を聞き、同じ地域で育ち、一緒にお祭りをしているなんて驚きと共に羨ましくなりました。また一方で、新しく地域に越してきた方も、性別や年齢、国籍も関係なく（スリランカの方も！）自然にその輪の中にいたことにも驚きでした。その上、今日初めて来た学生も暖かく迎え入れてくださって、「来てくれてありがとう、次は運動会頼むで！」と、うれしい言葉を頂いたので、ぜひ次もお邪魔したいと思います。

立命館大学産業社会学部 4回生 松村菜摘子

今回本能夏祭りのお手伝いを通して、本当にたくさんの住民の方が来ていたことに驚きました。小学生からお年寄りまでみなさんとても楽しそうにしている、盆踊りの時には車椅子にのったおじいちゃんやおばあちゃんが音楽に合わせて踊っているのがとても印象的でした。夏祭りを通して幅広い世代の住民の方の交流の場になっていると感じました。私がゼミで通っている京極学区でもファミリーマンションやワンルームマンションが増加しており、新旧住民や世代間の交流が1つのテーマにもなっていますが、これだけの多くの方が参加し、抽選券にマンション名を記入する欄を作っているなど、参考や勉強になることもたくさんありました。京極学区でも、引っ越してきた子育て世代のお母さんの話を聞いていると、「はじめはなかなか地域の行事に参加するには勇気がいるけれど、子供やみんなが楽しめるイベントがあると参加しやすく、参加してみると次も行ってみよう！と思います。」と言っていました。本能でもこのような夏祭りをはじめ多世代が楽しめるいろいろなイベントをきっかけに、更に地域に興味を持つ人が増えていくと思いました。

立命館大学産業社会学部 3回生 岡本久美子

## 本能夏祭りに参加して

私は4年前、過疎化の進む田舎から、ここ京都に出てきた。故郷のことを考えるとき、家族や友達や思い入れのある場所はもちろん、近所の人たちを思い出す。学校の帰りにおかえりと声をかけてくれるおばあちゃん何かいたずらをしたときに本気で怒ってくれる近所のおじちゃん故郷では近所のみんなが知り合いだった地域が子供を育てるよく言われている言葉だが、故郷を離れて、そして今回の夏祭りに参加して、それを実感した。私の目には、子供たちだけでなく大人も生き生きと楽しく夏祭りに参加しているように見えた。主体となる人が楽しむことで、地域の活動はこれからもずっと続いていくと思う。夏祭りが隣近所に住む人を知るきっかけとなり、顔の見える付き合いができるようになる。人と人とのつながりが、その地への愛着や帰属意識を高めると思う。

古いものを守りながら新しいものを受け入れていき、これからも人に愛される、人が愛する本能学区であってほしい。

京都府立大学 中村真理

## 「本能」ののれん サインデザイン賞受賞

本能特別養護老人ホームにかかる染め抜き暖簾の案内標識が、社団法人日本サインデザイン協会(Japan Sign Design Association)主催の第40回SDA賞「サインデザイン奨励賞」を受賞しました。

本能特養の各階エレベーターホールや浴室前などに、暖簾で染め抜かれた案内板・表札がかけられています。デザインは安井建築設計事務所が、制作は三条油小路町の杉下印染店が担当した染物です。「SDA賞」は、1966年から始まる我が国唯一のサインデザインに関する顕彰事業です。生活の安全に密着するサインが、訴求効果と環境との調和を考えて創造されること、また産業振興と美観保持に寄与すること、を奨励するために設けられています。同設計事務所担当された森雅章



氏(蠅螂山町 本能まちづくり委員)によると、「大型のれんを誘導サインとして

思い切った使い方をしたこと・地域の伝統産業を活用したことが評価されたと思う。」ということです。表彰式は本年12月、来年発刊の「年鑑日本の空間デザイン 2007」に掲載予定です。おめでとうございます。

## お知らせ

### 本能区民体育祭 (主催：本能体育振興会)

10月8日(日)9:00～ 雨天9日(月)

堀川高校グラウンドにて

今年は「都市再生モデル調査」事業の一例として、立命館大学乾先生とゼミ学生さんの協力を得て、正門横のステージ広場で、うどんをつくり販売します。本能小学校廃校以後途絶えていたメニュー復活です。この他にも楽しい企画があります。どうぞ新しい本能学区民の方々もご参加下さい。

### 第2回 本能ものしり講座 開講

10月13日(金)PM7:30より

本能自治会館会議室にて

「やっかい・しっかい(悉皆)」

講師：高山禮蔵氏(元本能寺南町)

本能ならではの京染のプロにお話をうかがいます。

呉服の常識とそして極意を知るために、皆様是非お越しください。

### 今秋の「おいでやす染のまち本能」

11月11日 PM1:00～5:00

12日 AM10:00～PM5:00

本能館にて(油小路錦小路上る東側)

公開工房ツアー受付 11日 PM1:00～3:00

12日 AM10:00～PM3:00

実演コーナー 11日 PM1:00～5:00

12日 AM10:00～PM5:00

絞り染帯揚げ制作体験(要予約 定員30名  
費用3000円) 12日 AM10:00～

マイキモノ・プロデュース(10万円で詠える  
私好みの着物) 11日 PM1:00～5:00

12日 AM10:00～PM5:00

特別企画 マイキモノ全員集合!

12日 AM11:00

ご参加の方に柳水のお茶席無料サービス

本能学区に新しくお住まいになられた方々、本能学区を知る機会です。ぜひお遊びにお越し下さい。公開工房ツアーご参加の方で、アンケートにお答えの方家紋入りストラップをプレゼントします。

**ひといごと** ◎陽射しの強い夏、マンション、ビルの影を探して歩く習慣が身につきました。(ゆ)  
◎秋の到来とともに「都市再生モデル調査」対象事業が始まります。ご協力をお願い致します。(N村)  
◎「都市再生モデル調査」の中で9月22日に、三条通沿道にお住まいの方々と本能まちづくり委員会との意見交換会がもたれます。MO